

研究題目

ふるさを愛し、ふるさとの未来と自己の生き方を見つめる生徒の育成
～地域の特性、地域資源、人材を生かした
総合的な学習の時間の取組を通して～

目 次

- 1 はじめに
- 2 研究の内容
- 3 具体的な指導
 - (1) 地域学習
 - (2) 米良太鼓
 - (3) 西米良神楽
 - (4) 西米良村特産品応援プロジェクト
- 4 研究実践の成果と課題

宮崎県西米良村立西米良中学校 校長 末吉 豊文

1 はじめに

本校は、宮崎県の中央部西端に位置する西米良村唯一の中学校で、1学年8名、2学年7名、3学年10名、合計25名（平成27年度）が在籍するへき地校である。生徒たちは素直で、何事においても一生懸命に取り組む。本校の所在する西米良村は、人口約1,200人、村内には標高1,000mを越える山々が連なり、緑に囲まれた自然豊かな村である。村内や近隣に高等学校はなく、本校を卒業した生徒たちは進学のために親元を離れ、一人で生活する必要に迫られる。そのため保護者や村民は子どもを慈しみ、村全体で子育てをしようとする雰囲気があり、村民は本村で成長した子どもたちが、本村の未来を見つめ、本村に貢献する人材になって欲しいという大きな願いをもっている。

村内に保育園が1園、小学校も1校のみで、生徒たちは幼い頃から同じメンバーで過ごしてきたこともあり、良好な人間関係を築いている。しかし、お互いの個性を十分に把握した狭い人間関係の中で生活しているため、自己表現力やコミュニケーション能力の育成が課題であると以前より指摘されてきた。また、中学校卒業後は一人での生活となるため、自己管理能力や様々な課題に対応し解決していく課題対応力の育成も課題とされている。

本校では、基礎的・汎用的能力（自己表現力やコミュニケーション能力、自己管理能力、課題対応力等）を育成する上で、教科指導や総合的な学習の時間、学校行事等の様々な教育活動、また、それらの横断的な取組の中で、自ら判断し行動する場面を意図的・計画的に取り入れることが有効であると考えます。

そこで、本校で実施している総合的な学習の時間において、生徒に基礎的・汎用的能力を身につけさせるために、本村の特性や地域資源、人材等を生かした取組を充実させることが、課題解決に迫る手立てとなると推察した。また、本村で成長した子どもたちが、本村の未来を見つめ、本村に貢献する人材になって欲しいという村民の願いにこたえるため、村の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活等を深く理解させ、自己との関わりを認識させることで、村の未来と自己の生き方を見つめることができる。これはキャリアプランニング能力の育成に繋がるものである。

以上のことにより研究題目「ふるさとを愛し、ふるさとの未来と自己の生き方を見つめる生徒の育成～地域の特性、地域資源、人材を生かした総合的な学習の時間の取組を通して～」を設定し、研究実践を行うこととした。

2 研究の内容

(1) 総合的な学習の時間の目標と年間計画

本校では総合的な学習の時間において、生徒に身につけさせたい資質や能力・態度として下記の3つの目標を掲げ、学校行事や各教科と関連付けながら取り組んでいる。

- ① 学習方法に関すること
西米良の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活等について調査活動や体験活動を通して、自分から進んで学ぼうとする態度。
- ② 自分自身に関すること
西米良の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活等のよさを体感するとともにいろいろな人と関わりを深め、自己の生き方を考える資質。
- ③ 他者や社会との関わりに関すること
他者や地域について、調査活動や体験活動等で学習したことを分かりやすくまとめたり、表現したりする能力。

この3つの目標を達成するために、表1のように3つの項目において6つの取組を実施している。なお、各取組では上記目標①～③のどれを達成するために取り組むかを明確にし、取組のための取組とならないように常に職員の意識化を図っている。

また、生徒に基礎的・汎用的能力を身につけさせるために、どのような手立てをとるのかも明確にした。具体的例を挙げると、外部の方の指導を受けながら友人と協力し、調査・体験活動に取り組むことで、人間関係形成・社会形成能力を身に付けさせたり、特産品生産者の仕事内容や工夫している点を聞かせ、将来の自己実現のためのプランを描かせることで、キャリアプランニング能力を身に付けさせたりする等の手立てを講じた。

表1 総合的な学習の時間の取組と目標

項目	取組	時間	目標
ふるさと西米良学 ※注1	地域学習	8	①②③
	伝統芸能継承活動（米良太鼓、西米良神楽）	12	①②③
表現活動	小中合同学習発表会	20	③
キャリア教育	西米良村特産品応援プロジェクト	10	①②③
	職場体験を中心とした活動（2学年のみ）	20	①②
	進路選択、決定に向けた活動（3学年のみ）	20	①②③

※注1 「ふるさと西米良学」とは、生徒たちがふるさと西米良独自の「自然」「歴史」「暮らし」「文化」を知るために村教育委員会が構築した取組であり、本村を学ぶことを通して自分の生き方について考える学習活動である。学習は小中学校9年間を見通した系統性・一貫性のある目標及び内容にもとづいて、本村の「もの・人・こと」から学ぶという特性をもっている。

総合的な学習の時間は地域の特性、地域資源、人材、学校行事との関連等を考慮し、表2のような年間計画としている。また、小中合同学習発表会のように学校行事が学習内容の発表の機会となる取組については短期に集中した時間設定となるが、村との関わりの中で自己を見つめ、自己の生き方について考える取組については、定期的に学習時間を設定し、年間を通しての取組とした。

表2 総合的な学習の時間の年間計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
取組		地域学習		米良太鼓		小中合同 学習発表会		西米良 神楽				
		西米良村特産品応援プロジェクト										
							職場体験を中心とした活動					
		進路選択、決定に向けた活動										

(2) 地域に根ざした取組

表1の通り総合的な学習の時間は6つの取組で構成される。その中でもふるさと西米良学における地域学習と伝統芸能継承活動（米良太鼓、西米良神楽）及びキャリア教育における西米良村特産品応援プロジェクトは、本村の特性や地域資源、人材との関わりがとて強く、生徒や本村、本校の抱える課題を解決する取組になり得ると判断した。そこで、これらの取組において、ふるさとを愛し、ふるさとの未来と自己の生き方について深く考える生徒の育成を目指して研究実践に取り組んだ。

① 地域学習

村内各地域を隣接する地区や移動しやすい地区に3グループ（「越野尾地区」「小川地区」「板谷地区・八重洲地区・横野地区・竹原地区・上米良地区」）に分け、3年サイクルで各グループの現地調査を行う。学習は「ガイダンス及び事前調査」、「現地調査」、「学習のまとめ」で構成し、学習についてまとめた内容は小中合同学習発表会と村主催の行事において展示発表する。

② 米良太鼓

米良太鼓は、本村に継承されている西米良神楽の各番付の楽（囃子）を組み合わせ合わせた太鼓の演奏で、村内約20名の方々が継承している。本校では平成3年度から保存会の指導を受け、メラリンピック（小中村合同運動会）で練習の成果を披露している。

③ 西米良神楽

西米良神楽は、村内の村所、越野尾、小川各地区で保存・継承されており、宮崎県の無形民俗文化財に指定されている夜神楽である。12月に各地区において夜を徹して舞われる。伝統芸能継承学習を地域に保存・継承されている伝統芸能を知る機会とし、神楽の舞を観るだけでなく、神楽の由来や歴史について学ぶ機会とする。

④ 西米良村特産品応援プロジェクト

本村特産品を使ったフードビジネスに、中学生の視点から参加する取組である。地域おこし協力隊の方がコーディネーターとなり、生産者や加工業者等を講師に迎え、1学年は村の特産品について学び、2学年は加工グループと連携して新商品を考案する。また、3学年はこのプロジェクトのまとめとして、販売促進のためのパッケージやポップを考案する。学習の成果は、小中合同学習発表会や村主催行事で発表する。

3 具体的な指導

(1) 地域学習

本取組は下記の3つの目標を設定し、2(2)①で記したように村内各地域を3年サイクルで現地調査を行い、調査内容をまとめる取組である。

- 調査・体験活動を通して、自分から進んで学ぼうとする態度を養う。
- 西米良村の歴史や伝統文化のよさを学ぶとともに、人との関わりを深め、自己の生き方を考える資質を養う。
- 他の生徒と協力してわかりやすく、調査した内容をまとめる。

本取組の主担当は教務主任が担い、各地域区長や調査施設の責任者との事前調整等の準備や取組全体の計画を行い、他職員は生徒の指導・支援に当たった。活動は6人程度の班で行い、3年生の経験とリーダーシップを引き出せるように、1～3年生が混じる縦割りの班編制を行った。

取組は表3の内容で展開し、調査の内容については各班で十分に検討し、それぞれの班が別の視点をもつての取組である。なお、調査内容はプレゼンテーション資料としてまとめ、小中合同学習発表会で発表した。

表3 総合的な学習の時間の年間計画

月 日	時間	学 習 内 容
5月11日	1時間	ガイダンス；本年度の総合的な学習における地域学習についての概要説明を聞く。 事前調査；村教育委員会発行「ふるさと探訪」を活用し、現地での調査内容の選定や調査時の質問内容を検討する。

5月14日	4時間	現地調査；児原稻荷神社（講話 甲斐法長氏） 越野尾地区（講話 濱砂恒光氏）
6月26日	2時間	まとめ；現地での調査内容や質問の回答、写真を活用して まとめを行う。

また、本取組において基礎的・汎用的な能力を身につけさせるための手立てを下記の通りとした。

- 人間関係形成・社会形成能力
外部の方の指導を受けながら、友人と協力し調査・体験活動に取り組ませる。
- 自己理解・自己管理能力
地域の歴史や伝統文化の学びを通して、地域社会の一員であることを理解させる。
- 課題対応能力
地域の特色や課題を把握し、解決のための視点を身につけさせる。
- キャリアプランニング能力
地域の方々から地域の特色やその継承等について話を聴き、自己の将来設計に繋げさせる。

生徒は事前調査の段階から熱心に班活動に取り組み、3年生は教師が意図したようにそれまでに経験してきたことを生かしながらいリーダーシップを発揮していた。また、現地調査においては、1・2年生も自分の役割をしっかりと認識し、講師の話を聴きながらメモをとったり写真を撮影したりする姿を見ることができた（写真1）。

調査内容は1年生が代表して小中合同学習発表会で発表することで（写真2）、本取組の中での大きな役割を務め、強い達成感を感じることができた。また、多くの保護者や村民の方々の前で発表する貴重な体験となった。



写真1 話を聴きメモを取る生徒



写真2 発表をする1年生

(2) 米良太鼓

本取組は下記の3つの目標を設定し、2(2)②に記したように本村に継承されている太鼓の演奏を保存会の方々から指導を受け、メラリンピック（小中村合同運動会）で披露する取組である。

- 自らの課題を解決するために、他と協力し、練習を工夫することができる。
- より良いものを目指すとともに、課題を解決するための努力を継続する。
- 地域の伝統文化に誇りを持ち、地域の一員としての自覚を深めるとともに、文化継承の意義を知る。

本取組の主担当は音楽科教員が担い、保存会への依頼や調整、合計10時間の練習計画の作成、練習の運営を行い、他の教員は生徒の支援や担当の補助に当たった。また、3年生を委員長とする実行委員会を組織し、生徒の自主的な活動の場を増やすことで、目標に迫るための手立てとした。なお、実行委員会は、太鼓練習時の運営を担当するとともに、各生徒が記入したワークシートを回収し反省をまとめ、それをもとに毎時間の活動目標を立て全体に伝えたり、太鼓練習時の最後に取組の評価を行ったり等の活動を行った。

取組は表4の内容で展開し、太鼓演奏の技術的な指導については、保存会の方が輪番で毎回2名ずつ担当してくださった。

表4 米良太鼓の取組内容

月 日	学 習 内 容
6月11日	オリエンテーション、役割分担の確認と調整、第1部の練習
6月18日	第1部の復習、第4部の練習
6月26日	第1部・第4部の通し練習、第2部の太鼓、笛、鉦練習
7月 1日	第1部・第4部の通し練習、第2部の復習、第3部の太鼓練習
7月 7日	第3部の復習、第1～4部の全体通し練習
8月26日	第1～4部の全体通し練習と必要に応じ部分的な手直し（2時間）
9月 3日	屋外練習（入退場を含む）
9月10日	屋外練習（入退場を含む）
9月12日	予行練習

また、本取組において基礎的・汎用的な能力を身につけさせるための手立てを下記の通りとし、全教職員の共通理解を図った。

- 人間関係形成・社会形成能力
外部の方の指導を受け、リーダーや友人と協力して練習等に取り組ませる。
- 自己理解・自己管理能力
毎時間の個人目標の設定と評価を通して、自分の課題を把握し、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。

○ 課題対応能力

演奏における個人と全体の課題に気付き、解決のための方策を考え実行する力を身につけさせる。

○ キャリアプランニング能力

学習の全体計画を把握し、自分の役割を果たすためにどのように練習に取り組めばよいか見通しを持たせる。

多くの生徒は小学生の時に中学生が米良太鼓を演奏する姿を見て、自分が中学生になった時には、太鼓を演奏できるという期待をもっている。そのため本取組への意欲はもともと高く、練習にも真剣に取り組んでいる（写真3）。また、毎回ワークシートに自分の目標を記入し、練習後に自己評価することで、自分自身の課題をしっかりと把握し、解決のために工夫して練習をすることに繋がっている。指導に当たる保存会の方は、生徒もよく知る地域の方々であるが、生徒は指導していただく立場に立って接することで、コミュニケーションスキルを高める機会となった。

メラリンピックでの太鼓演奏の披露（写真4）は、村民の半分以上が見守る中で行われ、演奏を終えた生徒は大きな達成感を感じ、多くの村民に賞賛されることでそれまでの努力が報われたという成就感をもつことができた。



写真3 練習の様子



写真4 太鼓演奏の披露

(3) 西米良神楽

本取組は下記の2つの目標を設定し、2(2)③に記したように地域に保存・継承されている伝統芸能を知る機会とし、その由来や歴史について学ぶ取組である。

○ 本村の伝統芸能である西米良神楽の歴史や現状を知り、実際の神楽を観ることにより、西米良神楽への興味・関心を高める。

○ 西米良村の歴史や伝統文化のよさを学ぶとともに、人との関わりを深め、自己の生き方を考える資質を養う。

本取組の主担当は教頭が担い、神楽保存会への依頼や調整、当日の運営を担当し、他職員はその補助に当たった。本村には3地区に神楽が保存・継承されており、3年ですべての神楽について学習できるように計画している。取組は表5の内容で展開した。

表5 西米良神楽の取組内容

日時・時間	学 習 内 容
11月10日 1時間	神楽についての説明を聴く。 講師 甲斐法長 氏 (児原稻荷神社宮司) ・ 越野尾神楽の由来、歴史 ・ 越野尾神楽の保存・継承の現状 ・ 神楽の準備 ・ 33番、どのような神楽があるのか
同日 1時間	神楽実演 ・ 式20番「剣の舞」(つるぎのまい) 舞 ; 浜砂克至 氏 太鼓; 浜砂栄一 氏 (越野尾神楽保存会会長) 笛 ; 浜砂 晃 氏 神楽体験 ・ 「剣の舞」の後半を講師と一緒に舞う。 ・ 体験者は各学年1名

また、本取組において基礎的・汎用的な能力を身につけさせるための手立てを下記の通りとした。

- 人間関係形成・社会形成能力
外部の方の指導を受けながら、体験活動に取り組む。
- 自己理解・自己管理能力
地域の神楽の歴史や現状を学び、地域社会の一員であることを理解させる。
- 課題対応能力
地域の課題に気付き、解決の方策や解決のための視点を身につけさせる。
- キャリアプランニング能力
地域の方から神楽の現状や課題などを聴き、自己の将来設計に繋げさせる。

神楽は生徒にとって楽しみな年中行事であり、生徒の中には神楽の舞手を務める者もいる。本取組は表5に示したように説明を聴いたり(写真5)、神楽の実演を観たりと受動的な活動が多いが、身近にある神楽の由来や特徴などの説明を聴くことは、生徒にとって興味をもって取り組める内容であった。また、神楽の現状を知ることで、神楽の保存・継承に関する課題を把握でき、自己の生き方を考える機会となった。



写真5 説明を聴く生徒

(4) 西米良村特産品応援プロジェクト

本取組は下記の2つの目標を設定し、2(2)④に記したように本村の特産品を使ったフードビジネスに中学生の視点から参加する取組である。

- 西米良村の特産品について、「見る」「知る」「考える」「作る」「売る」活動を通して、ふるさとの魅力やよさを再発見させるとともに、将来の進路の自己実現に向けた生き方について、見つめ直す機会とする。
- 西米良村の特産物の「生産」「加工」「流通」の流れを学ぶことにより、村の活性化に寄与していこうとする意欲や態度を育てる。

どのような内容で取り組むかについては、地域おこし協力隊の方が中心となってコーディネートし、学校のとりまとめは教頭が行い、他職員は生徒の支援・補助に当たった。また、講師としては、本村内で活動している食品加工グループ「いとまき倶楽部」をはじめ、食品製造加工業者、食品販売所、ゆず生産者、ジビエ加工施設等の方々に協力をいただいた。

取組内容は下記のように各学年で異なるので、最初と最後の学習は全学年で行ったが、他は各学年毎に日時を設定し、具体的には表6の内容で取組を展開した。

- 1 学年；本村の特産品を知り、特産品マップを作成し発表する。
- 2 学年；「いとまき倶楽部」と連携し、新商品のアイデアや商品イメージを考え発表する。
- 3 学年；「いとまき倶楽部」の新商品の販売を促進するための方策を考え発表する。

表6 西米良村特産品応援プロジェクトの取組内容

	1 学年	2 学年	3 学年
4 月	<4月23日(木) 2時間> ○村と連携し3年間で村特産品を知り、開発し、販売することを理解する。 ○各学年毎の学習内容を確認する。 ○加工グループ「いとまき倶楽部」の活動内容を知る。 ○村の特産品を試食し商品化に向けたアイデアを考え発表する。		
5 月	<5月21日 1時間> ○米良食品の商品や経営体制等についての話を聞く。 ○本時の説明や話し合いをもとに地図(模造紙)にまとめる。	<5月21日 2時間> ○西米良村にある食材を活用した商品のアイデアを各自で考える。 ○各自が考えたアイデアが商品化できるか、可能性について検討する。	<5月22日 2時間> ○いとまき倶楽部の加工所を見学し説明を聞き商品生産の状況を理解する。 ○学習したことをもとにポップ作成のためのアイデアを考え整理する。

6 月	<p><6月25日 1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホテルの里板谷の加工と販売等について話を聞く。 ○本時の説明や質疑応答をもとに学習プリントにまとめる。 	<p><6月25日 1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特産品の歴史や現状について学ぶ。 ○各自が考えたアイデアの商品化に向けて絞り込む。 	<p><6月25日 2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コラージュについて学習し、いとまき倶楽部をイメージしたコラージュを制作する。
7 月	<p><7月7日 1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ジビエ加工施設と販売について話を聞く。 ○本時の説明や質疑応答をもとに学習プリントにまとめる。 	<p><7月13日 2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○商品開発する際の販売方法や商品のイメージについて製造業者と意見交換を行う。 ○意見交換の内容をもとに商品を絞り込む。 	
9 月	<p><9月25日 2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゆず団地建設の経緯や現状等について説明を聞く。 ○本時の説明や質疑応答をもとに学習プリントにまとめる。 	<p><9月25日 2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新商品のいせ芋のアイスクリームと糸巻き大根のスイーツの販売に向けたパッケージや盛り付けを考案する。 ○意見交換した内容を絵と文章にまとめる。 	<p><9月18日 1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○パッケージデザインについて説明を聞く。 ○説明をもとに商品をイメージしながらデザインを考える。
10 月	<p><10月8日 2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習内容や写真等を整理する。 ○整理した内容をまとめ展示用の模造紙に特産品マップを仕上げる。 		<p><10月8日 2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○パッケージ作成時の条件等について説明を聞く。 ○条件を考慮し椎茸ピクルスのパッケージ案を完成させる。
3 月	<p><3月10日 1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いとまき倶楽部が生産した試作品を試食し、感想をまとめる。 ○本年度の学習活動を振り返り反省をまとめる。 ○次年度の取組について説明を聞く。 		

また、本取組において基礎的・汎用的な能力を身につけさせるための手立てを下記の通りとし、職員の共通理解を図った。

- 人間関係形成・社会形成能力
外部指導者や生産者等と意図的・計画的に関わらせる。
- 自己理解・自己管理能力
特産品の生産・加工・販売を通して生徒自身の特性を伸ばし、地域社会の一員であることを理解させる。
- 課題対応能力
村の特色や課題に気付き、課題解決の方策や解決のための視点を身につけさせる。
- キャリアプランニング能力
生産者等の仕事内容や職業人としての努力や工夫を聞かせ、将来の自己実現のためのプランを描かせる。

本取組のどの場面においても生徒は大変熱心に取り組んでいた。講師の方々の話を聴く際も受け身ではなく、熱心にメモをとりながら聴いたり、積極的に質問したりする姿を見ることができた。特産品マップの制作では友人と意見を交換し協力して作業を進める姿、パッケージ案やポップの制作では自分なりのアイデアを出し友人と意見交換を行う姿（写真6）、工夫を凝らした作品を制作する姿が見られた（写真7）。



写真6 意見交換をする生徒



写真7 作品を制作する生徒

完成した特産品マップ（写真8）やパッケージ案（写真9）、ポップ（写真10）は、小中合同学習発表会や村主催の行事において展示した。



写真8 特産品マップ

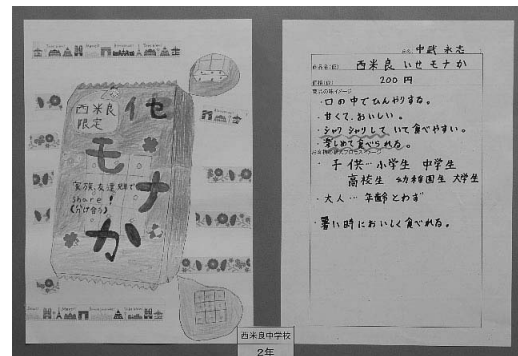


写真9 パッケージ案



写真10 ポップ

4 研究実践の成果と課題

(1) 成果

研究実践の成果を知る手立てとして、各取組後に生徒が書いた感想等を活用し検証すると、「返事の声は大きく、指導者の方の問いかけに対して反応をしよう」や「来年度は今のアイデアにさらに工夫をして良い商品を作っていきたい」等の感想から、自己表現を意識したり、その力を伸ばしたりしたいという気持ちが伝わる。

また「太鼓準備の時間が速くなってきている。今回は5分かかったので、次回は3～4分を目標としよう」という感想から自己管理力の高まりが垣間見え、「神楽の舞手が少なくなっているのが残念ですが、私たちがしっかり覚えて後世に繋いでいけるよう少しでも協力できればよいです」や「神楽もそうですが、実際に見て聞いて体験する事が大事だと思います。伝統を受け継ぐことは大変ですが、だからこそ価値のあることだと思います」という感想からは課題対応力が身に付きつつあることが確認できる。

更に「私は将来西米良に貢献したいと考えていて、どのように関わっていけば

よいかを、プロジェクトとして示してもらったので、参考にして今後に繋げたいです。」や「1年間とても楽しい活動でした。教わったことを自分の夢に生かしていきたいです。」等の感想から、村の未来と自己の生き方を考える機会を得たことでキャリアプランニング能力の育成に繋がったと考えられる。

以上のことにより、地域の特性、地域資源、人材を生かした総合的な学習の時間の取組を通して、研究題目「ふるさとを愛し、ふるさとの未来と自己の生き方を見つめる生徒の育成」に迫ることができたと考える。

なお、この成果は平成27年度に取り組んだ研究実践だけの成果とは言い切れない。4つの取組の中には、教育課程上の取扱いを変えながら20年以上も取り組んでいるものもある。また、西米良村の地域性、学校に協力的な土地柄、村民が長い時間をかけて作り上げてきた校風に起因するところが大きい。

(2) 課題－3年先を見据えた取組の構築

1で記したように本校はへき地校であるため、教職員は3年で異動する。そのため、地域学習や西米良神楽のように3年を1サイクルとする取組は、同じ地区や同じ神楽の学習を経験した職員がいない状況で実施することとなるため、前回の取組状況は計画書や記録映像で確認するほかない。更に、前回の反省点を生かして改善を図るためには、3年先を見据えて取組終了後に反省点をまとめ、確実な引き継ぎを行う必要がある。これは、地域の指導者や協力者等の人材に係る情報についても同様である。このようなことにより、各取組の継続と改善のためには取組内容と人材情報の確実な引き継ぎが課題である。

また、年度が替わり生徒が入れ替わることで、生徒に身につけさせたい能力は変化する。その年度の生徒にどのような能力を身につけさせる必要があるか把握するために、職員は生徒一人一人の状況を観察し理解する必要がある。また、その解決のために、どのような取組をするか検討しなければならない。3年で職員が異動することを考えると、短期間での生徒の状況把握、1年または2年目の新たな取組の立ち上げ、3年目での改善と取組の確立をするために、早急な生徒理解と短期間での取組の確立が課題である。